

基調講演

「医療安全の新展開：レジリエンス・エンジニアリング」

大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部 教授

中島 和江



これまでの医療安全は、有害事象を減らすことを目的として、「失敗事例」を学習の対象とし、特定された原因に対して安全対策を講じることが中心であった。近年、レジリエンス・エンジニアリングと呼ばれる新しい安全へのアプローチが注目されている。これは、複雑適応系である医療システムが、変動し続ける環境において、さまざまな制約のもとで柔軟に対応できているメカニズムを解明し、またそのレジリエンス特性（柔軟性や適応力）を利用し、「物事がうまく行われる」ようにしようとするものである。本講演では、レジリエンス・エンジニアリング理論の概要と、本理論をふまえた手術チームメンバーの会話分析、救命救急チームメンバーの適応的対応の機序、腹膜透析患者及び家族によるワールドカフェを通じたpeer-to-peer学習の効果について紹介する。

〈プロフィール〉

神戸女子薬科大学薬学部及び大阪大学医学部卒業後、フルブライト奨学生としてハーバード公衆衛生大学院修士課程卒業。大阪大学医学部附属病院第二内科、市立豊中病院内科、ハーバードリスクマネジメントファンデーションを経て、2001年大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部の設立に携わり、07年より部長、16年より教授。国内外の学術集会等で招待講演多数。12年「科研費」審査委員表彰、第8回日本e-learning大賞厚生労働大臣賞等を受賞。医学博士。